



重要な時を迎えた大阪の弁政連

弁政連 大阪支部 支部長 高階 貞男

その昔（と言ってもまだ20年程前のことだが）、弁護士会がやろうとしていたこと（の理解を得ようと、ある政治家に会った時のことである。「弁護士会は何かしてほしい時だけ来るなあ」といきなり先制パンチに見舞われた。それだけならまだ良かったのだが、話し終わって帰ろうとする私に、「用件は分かったが、政治家は票かカネがないと動かんもんなんだ」と致命的な一言を浴びせられた。その政治家は今居ないが、それ以来私は極端な政治嫌い、というより政治家嫌いになった。

4～5年前、弁政連の大阪の責任者をやってくれないかという話が持ち込まれた。あの時の嫌な思いがよみがえり、咄嗟にそれだけのご勘弁をと言っていた。しかし口説きに来た先輩が一枚上だった。何をどう言われたのか忘れたが、別れ際にはしようがない、お請けしようという結論を伝えていた。平成19年夏頃、弁政連大阪支部の運営を預かるようになり、国会議員の皆さんと接触する機会が急に増えるようになった。慣れないことで戸惑いもあったが、それよりも国会議員の皆さんの弁政連（弁護士会と言ってもよい）を見る眼が随分変わっていることに驚いた。票もカネもない団体であることに変わりはないのだが、業界の利益擁護の為に活動しているとは思えない弁政連と交流することに相応の意義を感じ取っていることがうかがえたのである。20年前の政治家に対する私の認識は改めるべきことをまず悟ったのでした。この思いは、この1～2年で更に強くなっていることを申し上げておきたいと思います。この変化は政治家そのものの変化ということもあるだろうが、主として、弁政連の地道な活動を続けてこられた先輩方、そして、この数年弁政連の意義を理解して協

力頂いた会員の皆さんの努力に負うところが大きいと思います、この場を借りて心よりお礼を申し上げます。

この4年間、私が第一に心掛けたのは、できるだけ自然な形で国会議員の皆さんと接触し、意見を述べあう機会を設けることでした。例えば弁政連の役員が交替した時、選挙で衆議院又は参議院の議員が当選した時などが最も自然な訳ですが、それだけでは不十分です。そこで一定のテーマ、例えば捜査の可視化等を定めて研究会を開催し、国会議員の皆さんに参加して頂くようにしました。驚くべきことに大阪出身の議員の大半、しかも本人がこれに出席頂けるようになりました。第二に心掛けたのは、弁護士会の会員に弁政連の意義を理解して頂き、できるだけたくさん弁政連の会員になって頂くことでした。そこで弁政連ニュースを発行して、全弁護士に配布するようになりました。その結果、130名程だった会員数が、350名近くまで増えてきました。しかし、まだまだ会員数を増やす必要があり、その努力を継続すべきだと思っています。

大阪の弁政連の課題として、いま述べた会員数のほか、地方政治との関わりをどうするかという問題があります。地方政治は大きな変革時期を迎えているだけに、この問題への取り組みは急がれるところです。もう一つの課題は会員の中から、政治を志す人を輩出することです。弁護士の政治への関わり方の究極の姿は、多くの弁護士が政治の世界で活躍することであろうと思います。実現するのは、若干先のことも知れませんが、そんな姿を夢見ながら、弁政連の活動をするのも良いのではないかと思います。

（本誌は、東北・関東大震災の前に執筆・編集されました。被災された皆さまには心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。）



弁政連の概況

弁政連大阪支部 幹事長 福原 哲晃

本年3月現在、日本弁護士政治連盟の支部数は36となり、1年で8支部増えました。近畿ブロックでも、昨年12月に和歌山支部、本年1月に奈良支部が設立され、支部が出揃ったこととなります。

現在、全国の弁政連会員数は3,160名（総弁護士数の10.3%）。その内、大阪支部の会員数は、この1年間で52名増えて324名（弁護士数の8.6%）となり、一弁172名、二弁205名を大きく上回り、東弁409名にも近づいてきました。今年度の増員目標＝「弁護士数の10%」にあと50名。皆様のご協力の下、何とか今年度中に目標を達成したいと思っています。

数は力なりと申しますが、一昨年の衆議院選挙、昨年の参議院選挙と、大阪支部に対する立候補者からの推薦

依頼は多数にのぼり、また、本年4月の統一地方選挙に向けて、地方議会の立候補予定者からも依頼が多数来ており、弁護士会の存在感は各段に増しつつあります。昨年展開した「司法修習生給費制維持」の運動でも、大阪弁護士会と弁政連大阪支部との共同で議員の方々に働きかけをし、多くの議員にご協力をいただきました。また、本年開催した民主党大阪府連との懇談会におきましても、地方議員の方から、地方議員との勉強会や懇談会を是非企画して欲しいとの要望が出ました。「地域司法計画」をはじめ弁護士会の足元の活動を推進するために、今後は、地方議会との関係を構築していく必要性を感じています。

平成22年度の活動報告と今後の予定

弁政連 大阪支部 副幹事長 藤原 誠

- 平成22年7月中旬から8月にかけて、司法修習生の給費制維持について、大阪選出の国会議員に対し、大阪弁護士会と連名で要請活動を行った。
- 同年10月1日に参議院議員選挙で当選された議員の当選祝賀会並びに国会議員との懇談会を大阪のホテルで開催した。当日の出席者は、当選議員を含む国会議員の本人が13名、代理が7名で、弁護士会員が64名（内、会費出席4名）であった。当選議員の祝賀の後、弁護士会員より、取調べの可視化問題と司法修習生の給費制維持問題について、基調報告を行い、国会議員と意見交換を行った。
- 同年11月22日午後6時30分より横桑勝仁衆議院議員をお招きして、若手会員との懇談会を開催した。出席者は、64期修習生5名を含む20名であった。
- 同年12月18日に大阪弁護士会の就職支援委員会等と共催で、国会議員の政策秘書との懇談会を開催した。弁護士登録している政策秘書3名の方に来阪頂き、出席者は修習生17名を含む37名であった。
- 平成23年1月22日（土）午後2時から、民主党大阪府連との意見交換会を開催した。当日の出席者は、国会議員の本人が13名、代理が1名、府議会議員が3名で、弁護士会員が37名であった。テーマは「取調べの可視化」と「弁護士・弁護士会と行政との連携」であった。
- 同年3月11日（金）に、自民党の衆議院議員である稲田朋美氏をお招きして、「衆議院法務委員会並びに自民党法務部会の活動」等をテーマに、懇談会を開催した。
- 今後も若手会員を中心とする会員増強を図る予定である。



《当選祝賀会並びに国会議員との懇談会》



《横桑衆議院議員との懇談会》



《弁護士の政策秘書との懇談会》



《民主党大阪府連との懇談会》

入会のご案内

日本弁護士政治連盟(弁政連)は

日弁連の政策実現をめざして行動します。

各政党との懇談会を開催します。

国会議員との意見交換や政策提言を継続的に行います。

若手が参加できる勉強会や楽しい企画を実施しています。

政治活動をしますが、政治におもねません。

あなたも、弁政連に入会しませんか。

弁護士登録5年未満の会員は会費が無料です。

- 1 日本弁護士政治連盟（略称「弁政連」）は、政治資金規正法第3条の「政治団体」です。日弁連の政策を、国会議員や政党の理解と支持を得つつ、立法というかたちで実現していく幅広い活動を行っています。「政治資金団体」と異なり、特定の政党を支持するものではありません。
- 2 弁政連は、任意に加入した弁護士の会員のみで組織され、運営は原則として会員の会費によって行われています。
- 3 弁政連には、都府県単位、ブロック単位の支部があり全国で活動しています。現在支部のない地域には支部を設立する活動を積極的に行っています。
- 4 弁政連の会員の（本部）会費は年間1万円です。ただし、弁護士登録5年未満の会員は「無料」です。なお、弁政連（本部の）会員となりますと、支部のある地域の会員は支部の会員ともなります。支部の会員は支部の規約に基づき別途支部の会費を納めていただきます。（大阪支部の年会費は5,000円です。）